

# 総 説

天竜川上流の姿

鳥類と河川環境

鳥のからだ

鳥たちの生活

河川の鳥の見分け方(検索表)

各論の見方



## 天竜川上流の姿

天竜川上流は、地域全体が雄大で豊かな自然環境に恵まれています。このため、南アルプス国立公園や天竜川沿いの天竜奥三河国定公園のほか、三峰川水系県立自然公園、天竜小渋水系県立公園、中央アルプス県立自然公園に指定されています。

諏訪湖を源とする天竜川は、木曾山脈と赤石山脈の間の伊那谷を南へ流れ静岡 - 長野県境の峡谷部から遠州平野を経て太平洋にそそぎ込みます。流路延長は213kmで、日本で9番目に長い河川です。このうち長野県内を流れる天竜川（天竜川上流部）は、流路長118.3km、流域面積3,707km<sup>2</sup>、平均河床勾配1/250となっています。

辰野町から飯田市までの天竜川は、木曾山脈のふもとからの広大な扇状地が広がり、天竜川沿いに河岸段丘（正確には断層崖）が発達します。このうち伊那市までの間は川幅が100m以下と狭く、流量も比較的安定しています。伊那市の三峰川合流点がりゅうきょうより下流では、200～500mの広い川幅をもつ区間と伊那峡・赤須峡・鷲流峡などの狭窄部きょうさくぶ（両岸が深く切れ込んだ谷間になっている渓谷状の区間）が交互に繰り返しています。そして飯田市の天竜峡より下流は、県境まで山地の中を縫うように蛇行しながら流れていきます。

天竜川にはいくつもの支川が流れ込んでいます。主な支川には上流側から横川川、三峰川、小渋川、太田切川、与田切川、松川、阿知川、早木戸川、遠山川などがあり、周辺の2,000～3,000m級の山々を源として豊かな水量をほこる天竜川水系を形成しています。しかしこれらの支川沿いの地質は脆く、豪雨時には土石流となって一気に天竜川に流れ下り、これまでに下流へ幾たびもの被害をもたらしてきました。「暴れ天竜」と呼ばれるゆえんです。

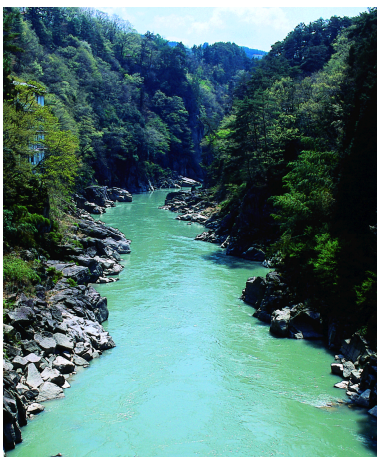


飯田市毛賀付近の天竜川



天竜川に隣接する地域は、水田や畑、果樹園などの耕作地が中心ですが、辰野町、箕輪町、伊那市では市街地が接しています。また、狭窄部では、兩岸に森林が接しています。

狭窄部の流れはゆったりとして水深が深く、水際は岩が露出していたり、樹木が岸から水面にせり出しています。また、伊那市や駒ヶ根市、飯田市付近の広い河川敷を持つ区間では、河道内に砂や礫が堆積して寄洲や中洲が形成されています。このような堆積地には、植物の生えていない砂礫地やカワラヨモギなどのまばらな草地、ツルヨシのような背の高い密生した草本群落、ハリエンジュ林やヤナギ林といった樹林など、多様な植生が見られます。このように変化に富んだ河川環境が、天竜川とその周辺に生息する多くの鳥たちの生活空間として、重要な役割を担っているのです。



狭窄部の景観（飯田市天竜峡）



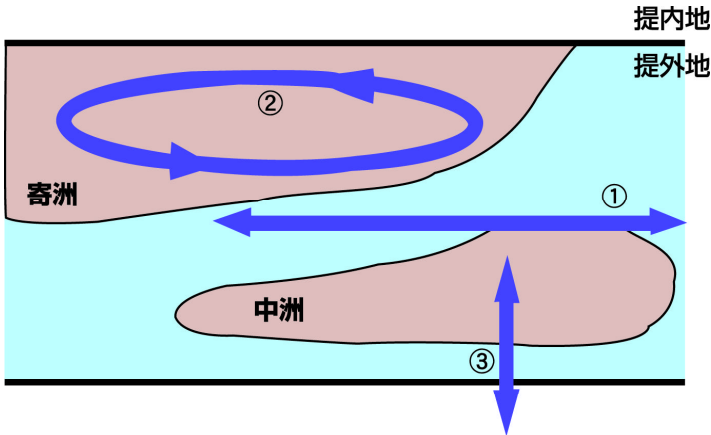
植物がほとんど生えていない砂礫地（伊那市付近）



ヤナギ林（飯田市川路）

## 鳥類と河川環境

鳥類は河川環境をどのように利用しているのでしょうか。下の図は河川を利用する鳥を3つのタイプに分けて、模式的に示したものです。



※堤防より河川側を堤外地、その反対側の家屋や田畑が堤防によって守られている側を堤内地と呼びます。

- 1 最も河川環境に依存して生活するタイプ。これは、繁殖、採餌<sup>さいじ</sup>、休息など、河川敷内で生活の大半をまかない、流路に沿った比較的広い範囲を行動圏とします。  
(例：カイツブリ類、ウ類、サギ類、カモ類、チドリ類、シギ類、カモメ類、カワセミ類、カワガラスなど)
- 2 河川敷内の寄洲や中洲に特有の環境（まばらな草地やヨシ原など）を利用して繁殖、採餌などを行う鳥。このタイプは、田園地帯などにも好んで生活する鳥ですが、都市化の著しい地域では、これらの鳥の生息域は次第に河川敷に限定されつつあります。  
(例：キジ、ヒバリ、セキレイ類、モズ、オオヨシキリ、ホオジロなど)
- 3 河川敷を餌場として利用する鳥。このタイプは、繁殖期には餌を求めて、営巣場所である人家やその周辺と河川敷を往復します。また、留鳥では冬場に群れをつくり、地上に落ちた草の種子や岸辺の虫などを求めて河川敷にやってきます。  
(例：ハト類、ツバメ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ類、カラス類など)



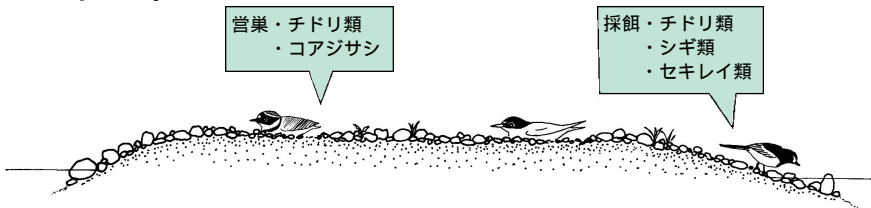
次に、河川敷に特有の環境ごとに、どのような鳥たちがどんな風に利用しているのかをみてみましょう。

## 【水 面】

広く開けた水面は、カモ類などの水鳥が休息や採餌場に、水面上空は飛翔昆虫を捕えるためにツバメなどが利用します。

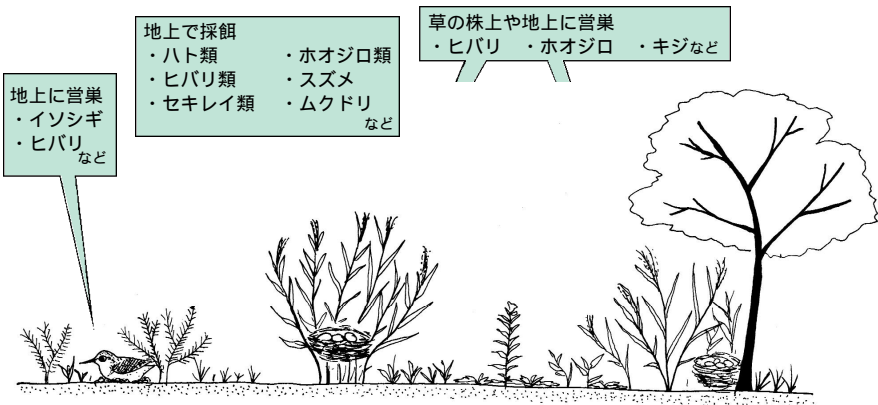
## 【砂礫地】

砂や礫が堆積した場所。ほぼ毎年、増水時に消失と堆積を繰り返し、植物が生えにくいことが条件となります。このような環境はまさに河川敷に特有で、イカルチドリやコチドリ、コアジサシが繁殖します。これらの鳥が特に好むのは中洲で、流路によって陸から隔てられるため外敵が入り込みにくいことと、植物が生えていないためにヘビが生息できないことが利点のようです。



## 【草 地】

砂礫地よりも水を被ることが少なく、また、樹林が成立するほど安定していない場所は、ヨモギやイネ科などの草本植物やヤナギやハリエンジュの若い樹がまばらに生えます。このような場所では、地上もしくは植物の株の上でイソシギやホオジロ、ヒバリなどが繁殖します。

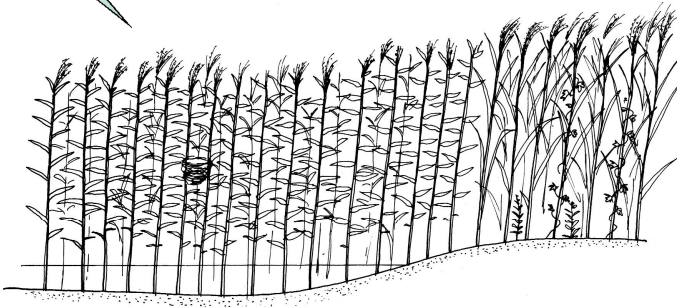


### 【ヨシ原】

ヨシ原とは、ヨシや、近い仲間のツルヨシなど、根もとが水に浸かるような場所に密生して生える植物の群落です。支川の流れ込みの場所など、水が部分的にたまったり、緩やかな細い流れとなっているところに成立します。天竜川上流部ではツルヨシが多く、安定した水たまりではヨシが、やや乾いたところにはオギ（ススキに似た植物）が生えます。これらの植物は背が高く密生するため、外から群落の内部が見えにくく、ヘビなどの外敵がのぼりにくい構造です。このような場所ではオオヨシキリやヨシゴイが繁殖し、冬場はヨシの茎の中にある虫を食べに、ホオジロ類がやってきます。

営巣・オオヨシキリなど

採餌（秋～冬）  
・ホオジロ類など



### 【ヤナギ林】

あまり水が被ることなく、ある程度安定した水際やヨシ群落の際にはカワヤナギ、オノエヤナギなどのヤナギ林が成立します。ヤナギ林は密生することが多く、樹林内は外から見えにくいいため、モズなどが営巣場所として利用します。また、ゴイサギがコロニー（集団繁殖地）を形成することもあります。餌場としても重要で、昆虫類の幼虫をねらってオオヨシキリやムクドリなど、多くの鳥が餌をとりにやってきます。

採餌

- ・カッコウ
- ・コゲラ
- ・ヒヨドリ
- ・オオヨシキリ

樹上に営巣

- ・サギ類
- ・キジバト
- ・モズ など



## 【ハリエンジュ林】

堤防に近く、めったに水が被らない安定した場所には、ハリエンジュ林が成立します。ハリエンジュは成長が早く、20～30年ほどで立派な樹林を形成してしまいます。このような場所は、キジバトやハシボソガラスが好んで営巣します。ハシボソガラスは、ハリエンジュ林の中でも特に高い木を選び、新芽が芽吹く前の2月の中旬頃から巣造りを始めます。また、たくさんの種をつけるので、それをシジュウカラなどが食べにやってきます。

### 樹上に営巣

- ・トビ
- ・ハシボソガラス
- ・キジバト
- など

### 採餌

- ・カッコウ
- ・コゲラ
- ・ヒヨドリ
- ・オオヨシキリ
- ・エナガ
- ・シジュウカラ
- ・ムクドリ類
- など



## 【橋などの構造物】

自然環境ではありませんが、橋や水門、ダムなどの人工構造物のなかで、すき間の多い構造のものは多くの鳥が営巣場所として利用しています。これらの鳥はもともと崖地や樹洞（大木の幹にできたすき間）などに営巣する鳥たちです。橋の裏側（下面）や橋げた、鉄骨のすき間は崖の窪みに、ダムの排水口は樹洞に、水門などのすき間は岩の割れ目やすき間に代わって使われているものと思われます。ドバト、ムクドリ、チョウゲンボウ、スズメなどの繁殖例があります。

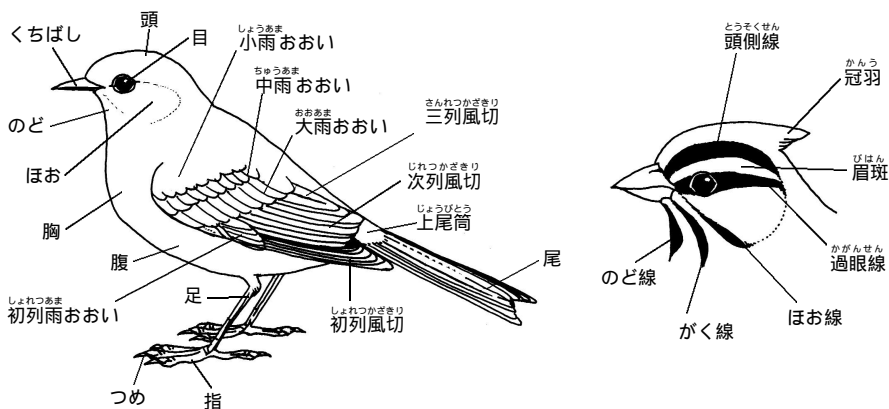


このような構造の橋は多くの鳥が営巣する（阿島橋）



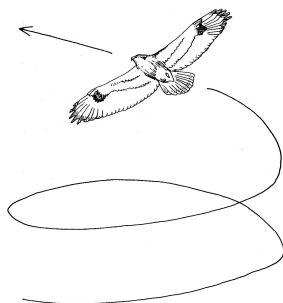
# 鳥のからだと行動

## 1. 鳥のからだの名前

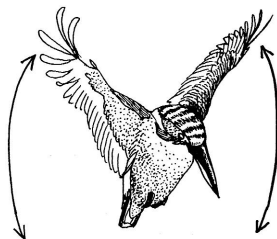


## 2. いろいろな行動

### 飛び方のいろいろ



輪を描きながら上昇する(旋回)  
(例：トビなど)

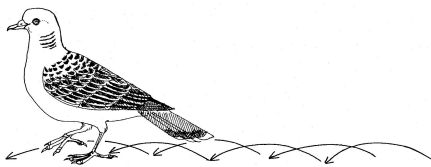


空中で停止する(ホバリング)  
(例：カワセミ、コアジサシなど)

## 歩き方のいろいろ

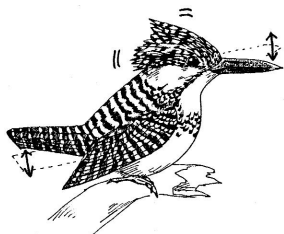


ホッピング  
(例: スズメなど)

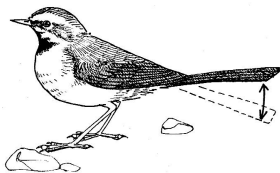


ウォーキング  
(例: ハト類、カラス類など)

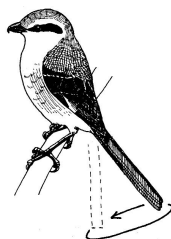
## とまったときの動作のいろいろ



しゃっくりをするように  
頭を上下させる  
(例: ヤマセミ)



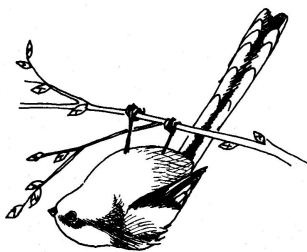
尾を上げしく振る  
(例: セキレイ類)



尾をゆっくり回す  
(例: モズ類)



木の幹に平行にとまる  
(例: コゲラなど)



木にぶら下がる  
(例: エナガなど)

### 1. 渡り（季節移動）

多くの鳥類は、季節によってすみ場所を移動する「渡り」をします。その距離は、長いものではキョクアジサシ（カモメ科）のように北極と南極を往復する鳥もいます。また、一年中見られる鳥も、多くは小規模の渡りをしているため、同じ個体が1年中同じ場所にいるとは限りません。このように渡りには様々なパターンがありますが、本書では天竜川とその周辺の地域で「どの季節に見られるか」によって鳥たちの季節移動を次のように区分しました。

留鳥...一年中見られる鳥。

夏鳥...春に渡ってきて繁殖し、秋にあたたかい地方へ移動する鳥。

冬鳥...秋に渡ってきて越冬し、春に繁殖地へ移動する鳥。

旅鳥...春や秋の渡りの途中、休息のためなどで立ち寄り鳥。

迷鳥...渡りの途中で台風などに遭うなどして、本来分布していないはずの場所に迷い込んでしまった鳥。

### 2. 鳥たちの鳴き声

#### 【地鳴き】

鳥たちの最も基本的な鳴き声で、仲間との連絡や危険を伝える警戒音などがあり、たいていは「チャ」、「ジツ」など短い鳴き方です。繁殖期、非繁殖期、あるいはオス、メス、成鳥、ヒナなどの区別なく、このような鳴き方を「地鳴き」と言います。

#### 【さえずり】

繁殖期に、主としてオスがなわばりを宣言するために、あるいはメスを誘うために鳴くのが「さえずり」です。ただし、すべての鳥がさえずるわけではなく、繁殖期にはっきりとしたなわばりを持つ鳥がほとんどです。

地鳴きが日常会話とすると、さえずりは歌と表現できるような美しい声であるのが一般的です。ただし、さえずりは目立つために歌っていますから、当然、外敵に対しても目立ちますし、ライバルへの挑戦状でもあります。命をかけた歌と言えるでしょう。

#### 【ドラミング】

鳴き声ではありませんが、キツキが立ち枯れた木などを連続的に叩いて大きな音を出すのが「ドラミング」です。これはさえずりと同じ意味を持っていると言われていました。

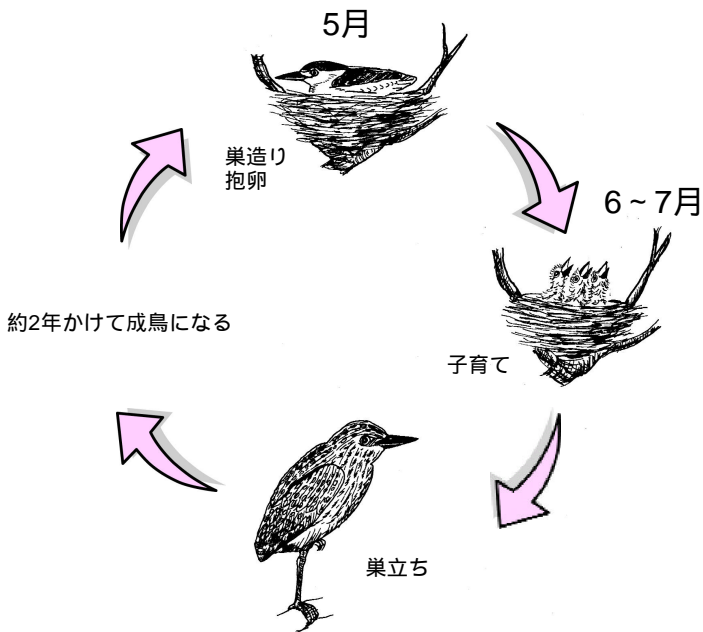
#### 【ぐぜり】

さえずりのような節回しで、つぶやくように小声で鳴く鳴き方です。冬鳥が春先、渡りの前に越冬地で鳴いたり、モズなどは他の鳥の鳴き真似を入れながらぐぜります。

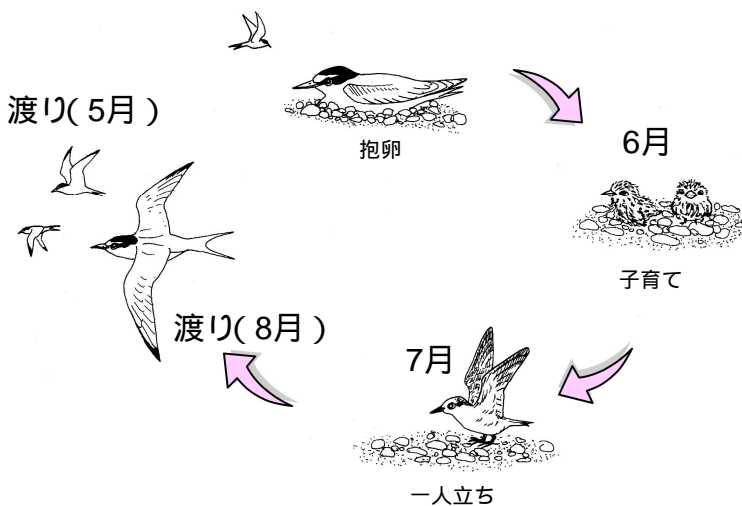


### 3. 鳥類の繁殖

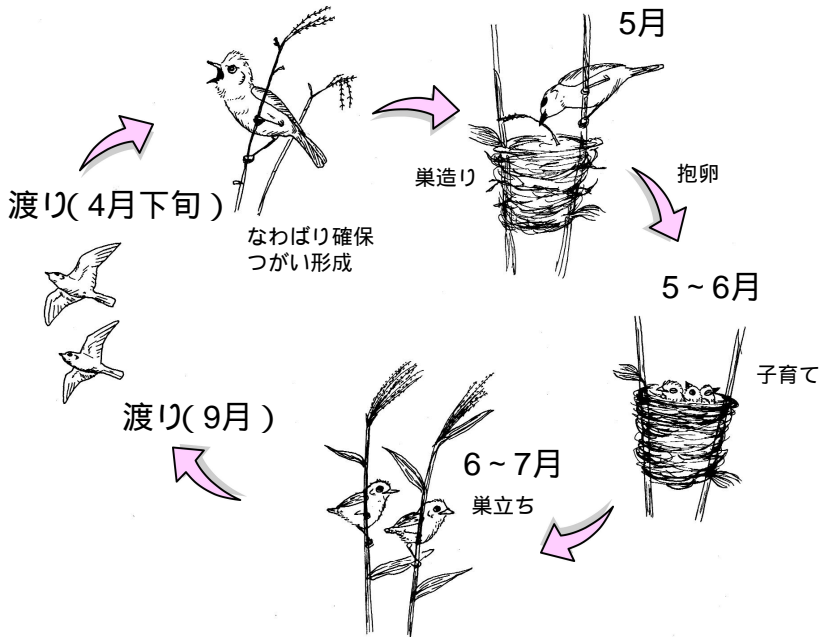
#### ゴイサギの繁殖スケジュール



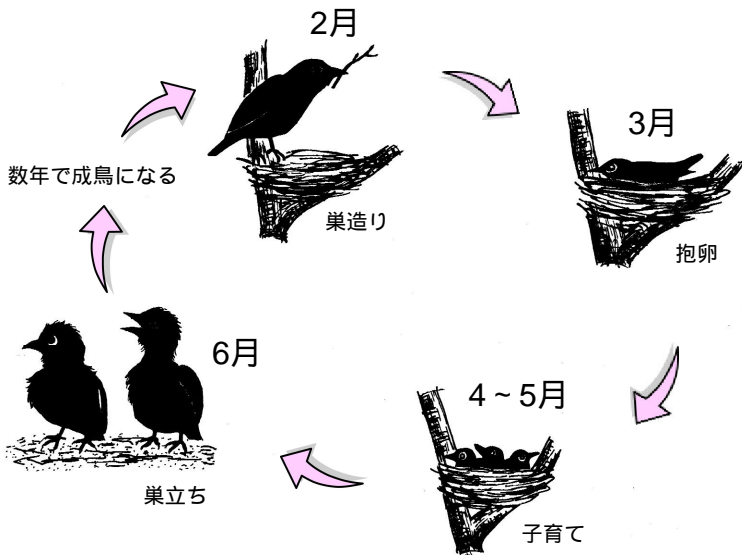
#### コアジサシの繁殖スケジュール



オオヨシキリの繁殖スケジュール

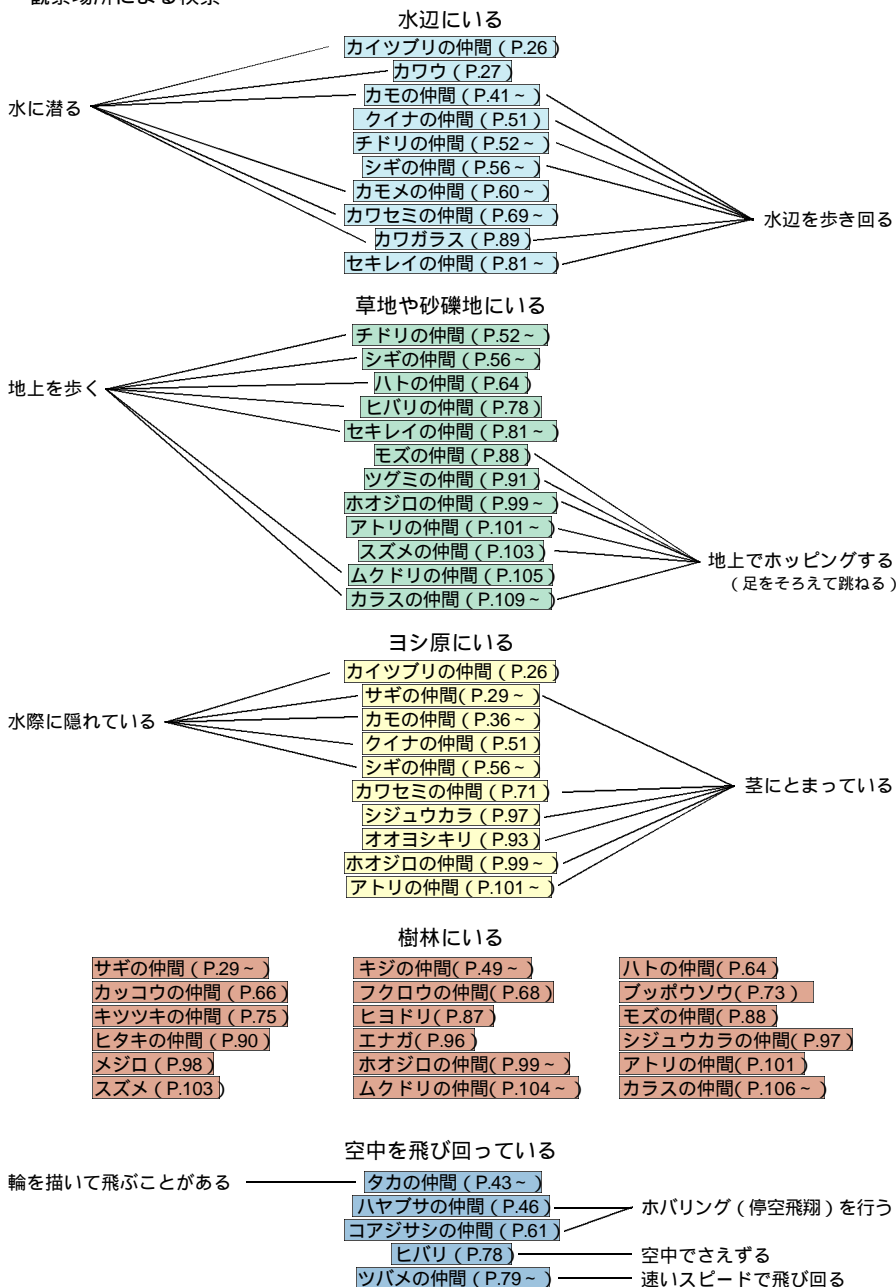


ハシボソガラスの繁殖スケジュール



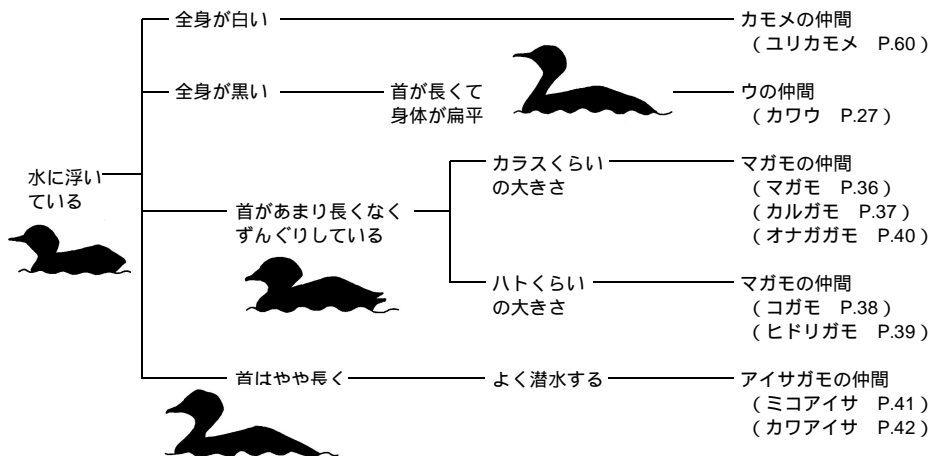
# 河川の鳥の見分け方(検索表)

## 観察場所による検索

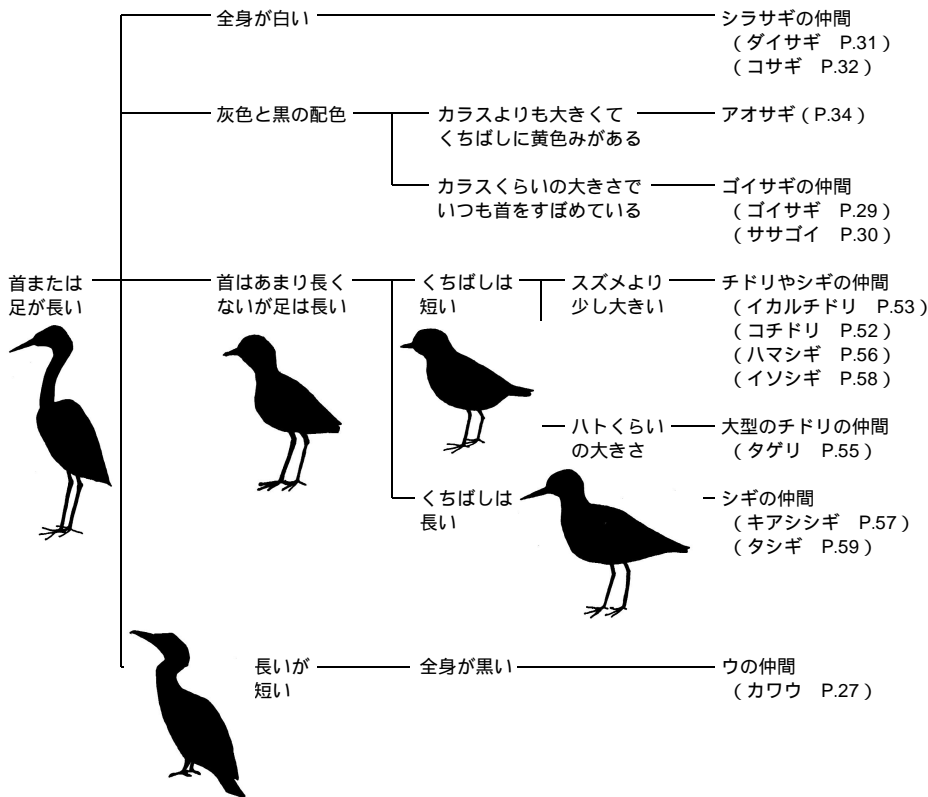




## 水鳥の見分け方



## 形態による見分け方(首や足が長い鳥)





# 各論の見方

標準和名（日本で一般的に使われている名前）

学名（国際的に使われている名前）

分類上のグループ名  
（目名、科名）

種名の漢字表記  
や俗名の一例を  
示しました。

ツボソウ Eurystomus orientalis(仏法僧)

ツボソウ目ツボソウ科  
希少種

野外で識別する  
ときに役立つ特徴的  
な形や色、しぐさを  
挙げてあります。



環境庁版のレッド  
データブックに  
記載されている種  
については、その  
カテゴリーを示して  
あります。(P.77参照)

<p><b>識別のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全身が黒っぽく見えるが、光のかげんで紺色や緑色に輝く。くちばしと脚は朱色。</li> <li>・飛ぶと翼の白い帯が目立つ。</li> </ul>	<p>天竜川における生息時期</p> <p>繁殖期 渡り区分：夏鳥</p>
<p>大 き さ：ハトと同じくらい 生息環境：低地～山地の森林 繁殖場所：森林内の樹洞、構造物のすき間 餌：昆虫など 鳴 き 声：「ゲゲツ、ゲゲツ」など</p>	

天竜川で一般的  
に見られる時期  
を水色で示して  
います。濃い部  
分は繁殖期（巢  
造り～ヒナの巢  
立ち）を示して  
います。  
(渡り区分：P.18参照)

大きさ  
身体の大きさを、  
よく知られたスズ  
メ、ハト、カラス  
を規準に示しまし  
た。

## 一般習性・分布

- ・夏鳥として渡来し、特に大木の多い場所を好むので、神社や寺での繁殖も多い。分布は局地的で、生息数は少ない。
- ・大木の樹洞にあいたキツツキの巣穴などに営巣するが、建物のすき間やダムのでの穴なども利用する。
- ・餌は昆虫が中心で、飛びながら飛翔昆虫を捕らえることが多い。大型のトンボやコガネムシなどの甲虫も食べる。
- ・環境庁のレッドデータブックにおいて希少種に指定されている。

## 天竜川上流における生息状況

平岡ダムから南宮大橋周辺に数つがい繁殖しているものと考えられる。長野県下でも繁殖地は限られており、営巣場所となる大木の減少などから、生息地が減りつつある。天龍村では村役場の建物に営巣した記録がある(p.\*\*参照)。



天竜川で毎年、  
普通に見られる  
区域をピンクで  
示しています。  
ただし、流域や  
支川については  
示していません。

## 解説本文

分布や習性、天竜川との関わりについてやや専門的な言葉も使って解説しています。わからない言葉は「用語解説」(P.124)で調べてみてください。